

!! 土の中からこんなものが出てくるよ!!

鈴杏葉

古墳時代のものと考えられる馬具。馬の装飾に使用された



僕の顔、鳥のミミズクに似ているでしょ?

土版



縄文時代後期に作られた土版。護符として身に付けたと考えられる

ミミズク型土偶

縄文時代後期に作られた土偶。昭和61年に思案橋遺跡(下辺見)から出土



子持勾玉

古墳時代中期に作られた子持勾玉。昭和57年に向坪B遺跡(久能)から出土



土製仮面

縄文時代後期前葉のものと考えられる。平成7年に釈迦才(釈迦)から出土



発掘調査の流れ

現場作業

1 重機による掘削



事前の試掘調査成果などを基に、遺跡に影響の少ない土を重機で除去。掘削する深さは調査地点ごとに異なるため、調査員が慎重に見極めます

2 人力による掘削



土色や含有物の違いを見極めながら住居跡などの遺構を人力で慎重に掘削。出土した土器などの遺物は出土状況を記録しながら取り上げていきます

3 記録作成



遺構の形などを計測して図面を作成するほか、出土した遺物等の写真を撮影。調査は一度だけなので、正確で精密な記録を残すように努めています

整理作業

1 洗浄・注記作業



出土遺物に付着した土を水洗いで丁寧に除去した後、一つ一つに遺跡名や出土遺構などの情報を細かい文字で記入していきます

2 接合・復元



遺構ごとに仕分けた破片を、器形や模様、色調などを手掛かりにパズルのように組み立てます。欠損部分は石こうで復元します

3 報告書作成



出土遺物を計測・観察し、実測図の作成や写真撮影をします。発掘調査時に作成した記録と共に整理・編集・執筆作業を経て、報告書が刊行されます

工程は2つに分かれていますよ!



発掘

埋蔵文化財

メモリアル



市内の埋蔵文化財包蔵地は「古河生活べりMAP」からご覧いただけます



埋蔵文化財とは、自分たちの祖先がこの地で生きて、現在までつないだ地中に残る文化の痕跡です。この痕跡が確認されている、または存在すると考えられている範囲が市内には現在399カ所あり、これを「周知の埋蔵文化財包蔵地」と呼びます。

現在、三和地区の一部において、農作物の生産性を向上させることを目的とした土地改良事業(畑の区画整理)を行っています。この事業に伴い、そこにある埋蔵文化財が壊される恐れがあるため、事前に発掘調査を行い、遺跡の形状や出土品などの結果を記録して将来に残す作業に当たっています。工事をきっかけに発掘調査を行うのは、文化財が地中に埋まっている限りは保存されているという原則があるためです。

地中に眠る文化財はとても繊細なため、慎重に発掘していきます。地面を丁寧に掘って出てきたものがたとえ小さな土器の破片であっても、それはこの土地の記憶です。もしかしら、皆さんの祖先が使っていたものかもしれません。今回の特集を通して、地中に残る歴史に思いをさせてみませんか。